

《令和4年度の発掘作業終了》

12月23日(金)に西浦遺跡の令和4年度発掘作業が無事終了しました。おかげさまで、飯田下伊那地区の歴史を考える上で貴重な資料を得ることができました。調査期間中のご協力に感謝します。来年度も別地点で発掘作業を行う予定です。引き続き、皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。



《C・D区の調査成果》

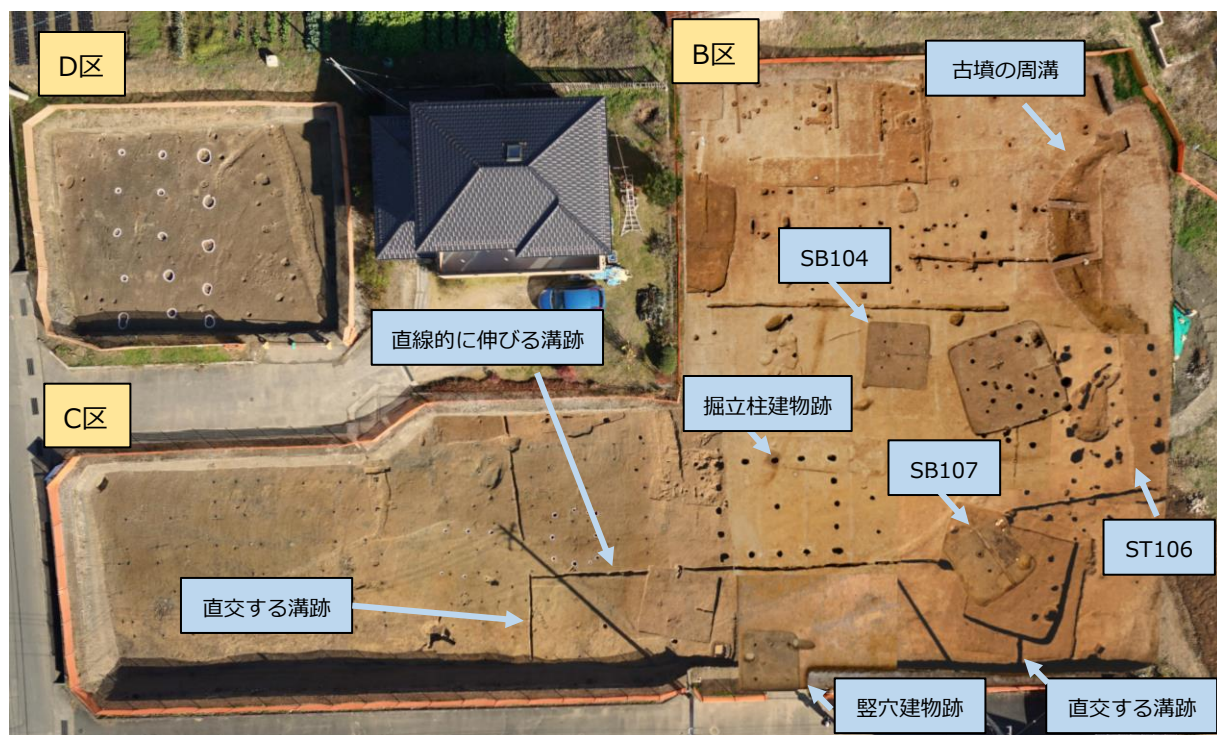
両地区とも住宅地で、住宅基礎の下に鋼管杭を打設した地盤強化が施されていました。C区では鋼管切断後、D区では鋼管のすき間を縫って調査を実施し、それぞれから掘立柱建物跡や溝跡を検出することができました。さらに、C区からは縄文時代の屋外炉と考えられる遺構が発見され、出土した炭化物による年代測定を研究機関に依頼しました。

また、B区から直線的に伸びる溝跡がC区まで続き、それに直交する溝跡が発見され、これらの溝跡で方形に区画した内側に竪穴建物跡などが建てられていたという古墳時代前期初頭(約1,700年前)の集落景観を復元することができました。



《令和4年度の調査成果》

今回の調査では、古墳時代の集落跡や未周知の古墳の周溝が見つかり、平安時代の竪穴建物跡から和鏡が出土する等の調査成果が得られ、飯田下伊那地域でも希少かつ重要な資料を提示することとなりました。



西浦遺跡B・C・D区の空中写真(図上が北東・垂直写真の合成)

《溝に区画された古墳時代前期初頭の集落跡を発見》

平行する溝跡や直交する溝跡を組み合わせて土地を区画し、区画内には、溝跡と同一の軸方向を持つ竪穴建物跡や掘立柱建物跡が造られていました。各建物が区画内に整然と配置されていた集落景観が想像されます。

竪穴建物跡は、4本支柱穴を基本とし、土器埋設炉や間仕切り溝、鍛冶炉^{かじろ}を想起させる強い熱を受けて硬化した炉跡を伴っています。



竪穴建物跡 (SB104)



掘立柱建物跡 (ST106)

《未周知の古墳の周溝を発見》^{しゅうこう}

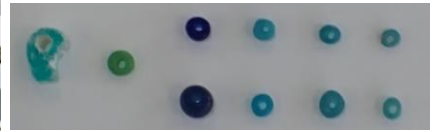
B区東端部の崖際から、記録にない古墳の周溝が発見されました。残存する周溝は、全体の1/4程度とみられ、直径約14mと推測される6～7世紀代の円墳であったと考えられます。多くの礫や土器等のほか、ガラス製の勾玉・小玉や石製管玉が周溝の中からまとまって出土しました。



古墳の周溝(真上から)



古墳の周溝(北東から)



周溝出土のガラス製勾玉・小玉

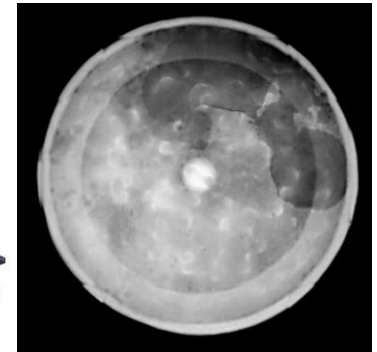
《平安時代末期の竪穴建物跡から和鏡が出土》^{わきょう}

平安時代末期(約1,000年前)の竪穴建物跡(SB107)の埋土中から、青銅製の和鏡が出土しました。古代の和鏡が発掘調査で出土したのは飯田市内では初めてとなります。

和鏡は、直径約8.4cmで、X線撮影を行ったところ、文様は不鮮明なものの、中央の丸い突起(紐^{ちゆう})に紐を通す穴が確認されました。



和鏡の出土状況



SB107出土和鏡のX線写真

調査地を中心に四方の風景を空中写真に収めました。これまで見慣れた景観が、開発事業を機に、刻々と変わっていく様子の一場面としてアーカイブします。



撮影方向 左上:南西から、右上:北東から、左下:北西から、右下:南東から

長野県埋蔵文化財センター 飯田支所
〒395-0151 飯田市北方297-5
電話：0265-49-0736
担当：上田典男
携帯：080-9560-1354
メール：maibun@naganobunka.or.jp
HP：<https://naganomaibun.or.jp>
支援業務：(株)シン技術コンサル

中西孝和/菊池康一郎/浅間 陽